

まちづくり成功の影に取り組みの継続性と主体の多様性が！～滋賀県長浜市～



●取り組みのきっかけ

長浜市は滋賀県の北東部に位置し、北陸経済圏との結節点となっていることから水陸交通の要所として古くから栄えました。現在は、隣接6町と合併したことにより人口は約123,000人となっていますが、旧市としては63,000人余りです。

長浜においても全国と同様、昭和50～60年代からのモータリゼーションの進展と人口の郊外への拡散により中心市街地は衰退しつつありました。そのような中、昭和54年に全国大手による大型商業施設の郊外への出店申請が出されるという問題が起こったのです。

これが、長浜のまちづくり、中心市街地活性化の取り組みのきっかけとなりました。また、中心市街地が衰退、地域コミュニティが希薄化したことにより、地元の伝統文化である曳山まつりの伝承に対する危機感も大きな弾みとなりました。

●これまでの取り組み内容

取り組みは、昭和59年に策定した「博物館都市構想※」がベースとなっていますが、事業としては、昭和60年の商業近代化策定事業からです。昭和62年には駐車場整備、観光物産センター「お花館」開設、御坊表参道の改修、平成元年には大手通り商店街の石畳舗装を行いました。

平成元年7月には黒壁もオープンしました。黒壁は元々銀行であった歴史的建造物の建物保存から始まったものです。この保存と併せて商店街活性化の拠点にしようと(株)黒壁が誕生しました。運営・管理会社である(株)黒壁は、立ち上げ時の資本金1億3000万円の内、9000万円を民間人が出資した第3セクターです。その後、空き店舗、空き屋を修復・再生しながら、現在は31店舗を展開するに至っています。

平成3年には第2弾の商業近代化策定を行い、まちづくりの指針としました。平成7年にはアイジーオー商店街の景観形成事業、平成9年には大手通り商店街のアーケード改修、ゆうき番街商店街での高齢者の実験的事業「プラチナプラザ」、平成10年にはゆうき番街商店街のファサード整備(御堂前)、平成12年には曳山博物館、平成15年にはゆうき番街商店街のアーケード改修(東祝町)、アーケード撤去(中祝町)、平成16年には大型空き店舗活用のテナントミックス事業「まぢ家SUCCESS横町」、平成17年には長浜オルゴール堂リニューアル(海洋堂フィギアミュージアム導入)等々を行ってきました。



黒壁と大手門通りのアーケード



プラチナプラザ事業のおかず工房とリサイクル工房

●ハード事業だけでなくソフト事業も

昭和50年代後半からイベント事業にも取り組んでいます。具体的には、昭和58年の「長浜出世まつり」をきっかけとし、昭和59年には「大園遊会」、昭和62年には「芸術版楽市楽座(アートインナガハマ)」、平成元年には「馬酔木展」、平成4年には「大手つくりもん夢物語」、平成9年には「ゆう歌舞伎」等を始めています。

ここでは特に、他地域との違いに腐心してきました。そのため、たえず新たなテーマを探す、創るなど、話題性の提供を心がけました。その意味では、継続的に新しいイベントに挑戦してきたともいえます。

イベントの企画、実施では市民・企業等の協力や参画を得ながら取り組みを進めてきました。ここでは、地元で地道に活動している人をうまく巻き込んできました。しかし、このような人たちの多くは行政や会議所等からは相手にしてもらえないと、多くの場合あきらめています。そのため、普段から交流を図り、信頼関係の構築を心がけてきました。

また、アイデアマンや女性の感性を大事にしました。ただ、実践肌の人もいるため、これらの人を含めた仲間づくりを行ってきました。仲間集めは大変ではありますが、目的を持って取り組めば参加はしてもらえます。ただ、自分が動かなければついてこないことも事実ですので、共に汗をかくことが重要となります。机に向かってはダメということです。

ハード事業、イベント事業に併せてソフト面での事業にも取り組んできました。具体的には各商店街においてC1構築事業に取り組み、プランづくりやシンボルマーク、ロゴ等を作成しました。これらのプランづくりは商業者自身が行い、国や県の施策等の受入体制の準備としてきました。

●成功要因は

このように長浜は25年にわたり、まちづくりに取り組んできました。そこでは、ハード、ソフトの両面から多種多様な事業が行われてきました。また、まちづくりは単なる商店街の活性化という枠組みにとらわれず、都市活性化という視点で中心市街地の活性化を行ってきました。そこでポイントは大きく以下のようものと考えられます。

- 都市を誇れる文化とまちへの愛着が気質としてあり、それが黒壁やプラチナプラザ等への参画や出資につながっている(企業や市民が自らのまちに投資)
- まちづくりや商店街活性化においてコンセプトづくりをしっかりと行い、その共有化を図ったうえで、事業に取り組んでいる
- 会議等では商業者に偏ることなく、市民や一般事業者・団体、若手や女性等をバランスよく配置し、多様な主体の参画を得ている
- また、それらの意見をしっかりと吸い上げ、事業に反映させることにより、関係者のモチベーションを醸成・維持している
- これらの多様な主体の発掘や参画のベースとなっているネットワークと信頼関係を築いたコーディネーターがいる



アーケードを撤去したところ、歴史的な建造物を一望でき、明るくなった、ながはま御坊表参道

全国的にも成功事例として名が挙がる長浜市ですが、課題がなくなったわけではありません。まちづくりとしては、地域に住む人々が生き生きと楽しく暮らせることを目指しています。その意味では、観光に偏りすぎており、地域生活者のさらなる入り込みが必要と考えています。また、「豊かさ、便利さだけがまちづくりではない。多少不便でも来てもらえるまちとしたい」との想いもあります。そのため、今後は地域資源を活かした自然との共生や界隈性の演出を図りたいとのことです。

(中小企業診断士 志賀 公治)

※博物館都市構想とは、市民が育んできた文化や伝統的なまちの雰囲気や現代の生活の中に活かして、まち全体を博物館のように魅力あるコトやモノで覆い、個性ある美しいまちとして住んでいこうというものです。